

目 次

1	調査概要	1
2	追加植生単位について	2
3	調査対象地域図	3
4	大阪府の植生の概要	4
5	凡例解説	8
6	植生調査表（組成表）	
	チガヤーススキ群落	23
7	資料リスト	25
8	調査担当者名簿	26

1 調査概要

大阪府における今回の調査（植生調査）は、前回調査（第2回自然環境保全基礎調査）で残された大阪西北部図幅、および大阪西南部図幅を対象に調査を実施した。

調査は前回調査と同様に、空中写真と土地利用図からの情報収集、現地確認調査（相観調査、植生調査）、植生図化作業の各段階を経て進めた。

まず、土地利用図と空中写真（S=1/8000、1981年7月～1982年10月撮影）から地形図上に既存資料による植生単位を基におおまかな植生の区分線を記入し、その図面を用いて現地相観調査を実施し、精度を上げながら現存植生図の作成を行った。

植生単位は、前回区分したものを基礎に調査を進めたが、今回の調査範囲の大半が市街地で人為的影響が顕著にあらわれ、土地利用上の区分が植生区分に該当することが多く、それらについては資料リストに示す図書を参考に区分を行った。

また、今回新しい植生単位としてチガヤーススキ群落、シバ群団、常緑広葉樹植林の3単位を設けた。

チガヤーススキ群落は、淀川、大和川をはじめ堺市などの小河川の河川敷に見られる。シバ群団は、千里インターチェンジ内の緑地に見られ、緑化工事による張芝区域を植生図に明示した。常緑広葉樹植林は臨海部工場内緑地帯に植栽された常緑広葉樹の幼令林と林床の荒れている社寺林についても区分した。更に、今回の調査範囲内を特徴づける数多くの陵墓については、調査担当者の直接踏査ができなかったが、宮内庁（京都事務所）の協力により陵墓内植生調査表の提供を頂き、参考資料として巻末に示した。

なお、今回の調査は、1983年8月から開始し1984年2月までに空中写真の判読と現地確認調査を完了し、以後資料整理と図化作業を行ったが、図化作業の段階で何回かの空中写真との整合作業を試み植生図の精度を高めた。

2 追加植生単位について

第2回自然環境保全調査で、大阪府において区分された植生凡例は36単位であったが、今回新たにチガヤーススキ群落、シバ群団、常緑広葉樹植林の3単位を追加した。

① チガヤーススキ群落

前回調査では淀川、大和川等の河川敷植生について一括してヨシクラスに包含したが、今回の調査対象である河口部では自然性が低く、また河川改修後の土手はヨシクラスの立地としては乾燥しすぎており、新たにチガヤーススキ群落を設けることとした。

② シバ群団

近年、高速道路等の整備によって大規模なインターチェンジが各地に出現し、その周辺部の緑化修景も盛んである。千里インターチェンジも万博当時に開設され、張芝を主とする緑化が盛土部に行われている。一部クロマツ等の植栽樹木も見られるが生育不良でシバ群団として区分した。

③ 常緑広葉樹植林

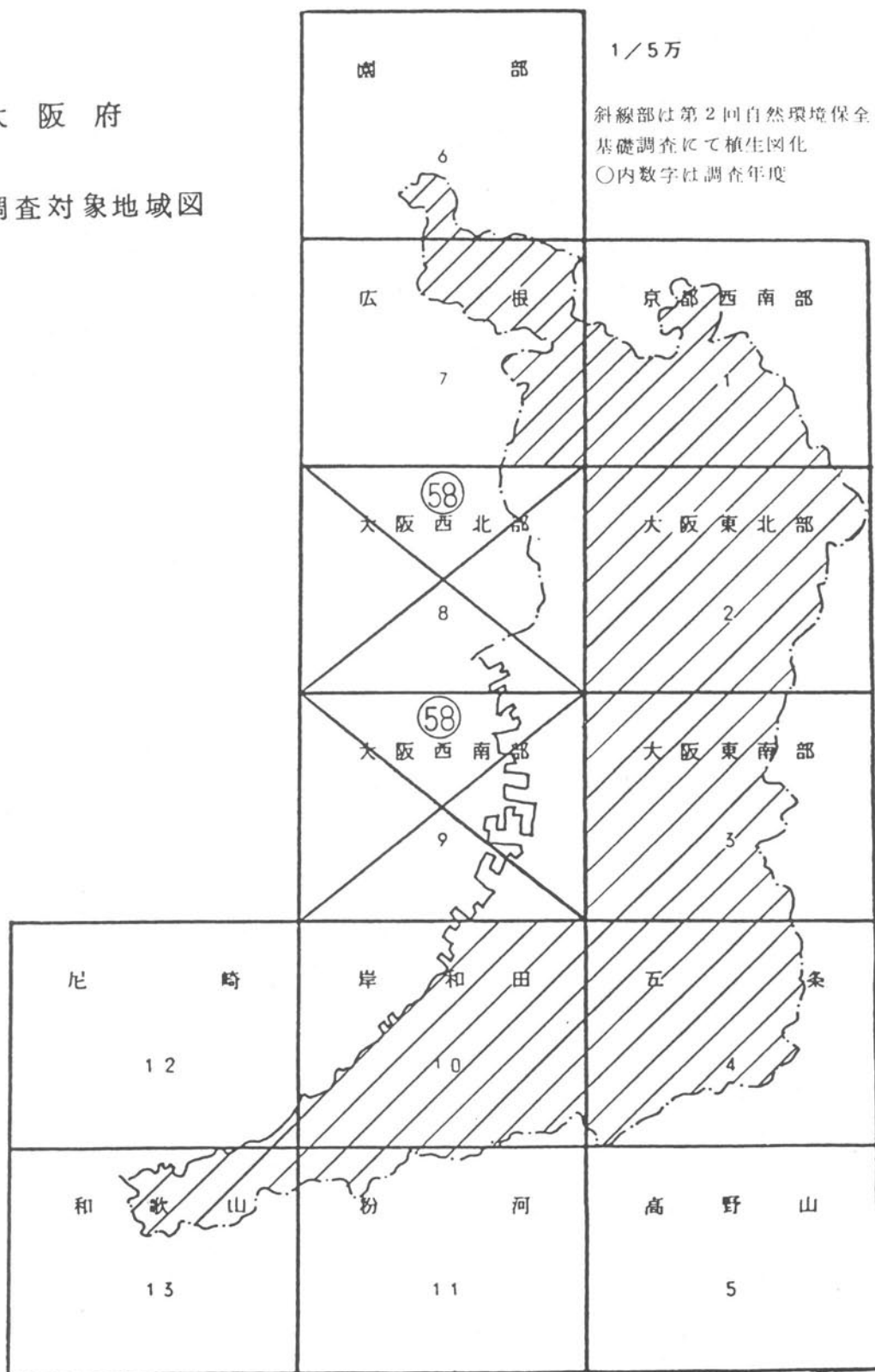
臨海部の工場と市街地の社寺に見られる。

前者は工場内の主として周辺緑化帯を形成する樹林で地域の自然植生構成種であるクスノキ、アラカシ、シイ、クロガネモチ、ヤマモモなどを用いて緑化を試みている。幼苗植栽を特徴としており未だ植生単位を特定できない。新日鉄堺工場、関西電力堺港発電所などの緑化帯が該当する。

後者はアラカシ群落の構成種が多く見られる樹林で、天然記念物に指定された古木を含むものもあるが、人為の影響を強く受け構成種の欠落や林床の荒廃が見られるのでこの凡例とした。堺市方違神社、大阪市住之江区護国神社、豊中市原田神社などが該当する。

3, 大阪府

調査対象地域図



4. 大阪府の植生の概説

大阪府の気候は、全域的には温暖乾燥型の瀬戸内式気候である。下表に大阪管区内の各観測点の気温降水量と暖かさの指数 (WI) 寒さの指数 (CI) を示すが、年平均気温は高地を除き15~16℃と温暖で、年間降水量 1,100~1,400と少量である。地域的には中央の平野・丘陵部が比較的乾燥し、北摂山地部は内陸冷涼型で、南部の山地は山脈が海岸に接するような形になっていることから比較的湿润温暖な気候となっている。

大阪府の気温、降水量と温量指数、乾湿指数

観測所名	所在地	標高	年平均 気温	年間 降水量	(WI) 暖かさの 指数	(CI) 寒さの 指数	乾湿指数
天 王	豊能郡能勢町天王	489 ^m	11.7 [℃]	1.784 ^{mm}	89.9	-11.1	16.2
東 郷	豊能郡能勢町地黄	235	13.7	1.497	109.4	-5.1	12.0
妙見山	豊能郡能勢町	662	10.6	1.429	83.5	-16.1	13.8
清 水	茨木市清水	35	14.7	1.417	119.2	-3.1	10.9
池 田	池田市建石町3243	63	15.0	1.433	122.1	-1.8	10.9
福 島	大阪市福島区	3	15.6	—	124.8	-0.5	—
新 庄	大阪市東淀川区	3	15.5	1.189	128.8	-1.8	8.8
茨 木	茨木市中穂積229-1	10	15.3	1.348	125.8	-2.3	10.1
枚 方	枚方市大字三矢287-3	40	15.0	1.291	122.4	-2.7	9.8
生駒山	東大阪市山手町	626	12.1	—	95.6	-10.8	—
田 原	四条畷市下田原	145	14.0	1.334	112.1	-4.4	10.6
鳳	堺市鳳東町	20	15.4	1.262	124.9	-0.9	9.5
大 阪	大阪市生野区勢山通	6	15.9	1.352	130.9	-0.3	10.0
富 田 林	富田林市毛入谷	62	15.5	1.298	126.5	-0.9	9.7
八 尾	八尾市太信寺31-1	9	15.5	1.157	127.6	-2.0	8.6
上之郷	泉佐野市上之郷	34	16.0	1.397	131.5	0	10.3
岸和田	岸和田市南土町	20	15.7	1.341	128.7	0	10.0
河内長野	河内長野市高向日野	115	14.8	1.328	121.0	-3.0	10.2
深 日	泉南郡岬町門前	3	16.2	1.420	134.3	0	10.4

大阪管区気象台区内気象観測累年原簿 自1961年 至1970年

地形は、北を北摂山地、東を金剛・生駒山地、南を和泉山地及び山脈で囲まれた大阪平野が、西に開けて大阪湾に面している。山地の標高は 700～1,000m と低く、前面には丘陵と段丘台地が分布し淀川や旧大和川によって造られた沖積地に連なっている。また、臨海部には工場や臨港施設を有する埋立地が展開している。

地質は地形区分と概ね対応し、山地帯は北摂山地が頁岩、チャートを主とする丹波層群、生駒金剛山地がマサ化がみられる領家花崗岩類で、和泉山脈が礫岩・砂岩・泥岩の和泉層群、丘陵地帯は礫・砂・粘土の互層からなる大阪層群、沖積低地は沖積層や低位段丘層の粘土・砂レキで構成されている。土壌は、山地が褐色森林土壌、丘陵と台地が赤黄色土壌、沖積地はグライ、市街地や造成地は未成熟土壌である。

大阪府の植生は、吉良により提唱された $WI \cdot CI$ から見て、低地はヤブツバキクラス域で高地はブナクラス域に属し、その境界は $WI = 85 \cdot CI = -15$ で北摂山地で標高 630m、生駒・金剛・和泉の山地で 820m 前後にあると推定される。人間活動が植生に影響を及ぼす以前には、これらの自然植生によって全域的に覆われていたと思われるが、現在は山頂・河辺低湿地・古墳・社寺境内地等の小面積を除いて自然植生は見られず大部分は代償植生によって占有されている。

北摂山地は、代償植生のモチツツジアカマツ群集によって大部分が覆われている。自然植生のシラキーブナ群集は妙見山に、モミーシキミ群集は妙見奥の院（能勢町）・勝尾寺裏山（箕面市）・本山寺（高槻市）、シーカナメモチ群集は神峰山寺（高槻市）・箕面川上流（箕面市）等に見られる。箕面川沿いにはケヤキーイロハモミジ群集も見られる。またモミやアカガシが能勢町天王で単木的に存在する。アカマツモチツツジ群集以外の代償植生としては、山地谷部にスギ・ヒノキ植林、山腹にヤブムラサキーコナラ群集が見られるが集落裏山ではクリやビワの果樹園も多い。

生駒山地のほとんどはヤブムラサキコナラ群集で、その典型は空池周辺に在る。マサ土や生駒石の採取による大規模な植生破壊地が見られる。

金剛山地は植林が多く、単調なスギ・ヒノキ植林地が続く。その中で大和葛城山・岩湧山の山頂にススキの優占する草地、石見川上流のケヤキやシラカシ群集の残存林が特記される。

和泉山地の上部はスギ・ヒノキ植林で、下部はモチツツジアカマツ群集、標高約400mがその境界である。モチツツジアカマツ群集の分布域では南部になるほどクロマツの出現率が高くなり岬町ではクロマツ群落となっている。これらは自然更新の植林とも考えられるが近年の利用度は低く、松枯れの被害でマツを欠きヤブムラサキコナラ群集と種組成的に差異の無くなった林分もある。この地域の自然植生としては、和泉葛城山頂のシラキープナ群集、大威徳寺（岸和田市）・泉佐野七宝滝寺（泉佐野市）のケヤキイロハモミジ群集とシラカシ群集がある。急傾斜地に見られるウバメガシは萌芽代償植生と考えられるが、比較的内陸部まで分布している。

丘陵地は、最近まで竹林・果樹園として維持されていたが、近年の開発により千里丘陵や泉北丘陵では大規模な住宅地に変貌した所も多い。しかし柏原・羽曳野ではブドウ園、和泉・岸和田ではミカン園と竹林が比較的大面積で未だ存在する。この地域の自然植生は主に社寺境内地に見られるシイ林である。上宮天満宮（高槻市）・建水分神社（千早赤坂村）・観心寺（河内長野市）・金剛寺（同）等のシイカナメモチ群集、意賀美神社（岸和田市）・興善寺（岬町）等南部のミミズバイースダジイ群集である。丘陵突端に位置する聖神社（和泉市）・美多弥神社（堺市）などではシリブカガシの優占する林分が見られる。

台地の大部分は古くから畑作・水田地として利用され樹林の残存は少ないが、大阪で最も早く開けた上町台地には斜面にクスノキ・ムクノキ・エノキの残存林が、信太山にはネザサーススキ群集が自衛隊演習地の中に見られる。

現在台地上にみられる常緑広葉樹林はアラカシ群落のナナメノキの優占するタイプでクスノキ・ナナメノキ・アラカシが優占し、ムクノキ・エノキなどの落葉広葉樹も出現する。大鳥神社（堺市）・仁徳天皇陵（同）・継体天皇陵（茨木市）等の他、恩智神社（八尾市）・枚岡神社（東大阪市）・一須賀神社（河南町）等の山地下部にも見られるが、人為的影響が強く自然植生と断定できない要素も多い。

沖積地は、早くからの市街地化で公園や住宅地の縁以外にこれといった植生は見あたらない。社寺林も層序を欠き台地上のそれより園地林的な様相が強い。淀川に見られるヨシクラスの群落も河川改修によって面積減少傾向にある。

大阪における海浜性の植生は、自然海岸の少なさを反映して極めて貧相である。住吉神社（岬町）のウバメガシトベラ群集等が自然植生として挙げられるのみで、大部分は偏化植物の優占する埋立造成地となり大規模なコンビナートを形成している。コンビナート内ではクスノキ・タブ・シイ・ヤマモモ・ホルトノキなどを使用して常緑広葉樹林の造成を試みている工場もある。

5 凡例解説

今回の植生図作成に使用した凡例は、以下の通りである。

ヤブツバキクラス域自然植生

5 660 アラカシ群落

ヤブツバキクラス域代償植生

12 712 ヤブムラサキコナラ群集

13 730 伐跡群落

15 761 ネザサーススキ群集

16 763 チガヤーススキ群落

17 770 シバ群団

18 7A3 モチツツジーアカマツ群集

19 7B0 クロマツ群落

河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生

20 830 ヨシクラス

植林地・耕作地植生

21 912 クロマツ植林

23 940 常緑広葉樹植林

24 970 竹林

25 980 常緑果樹園

26 990 落葉果樹園

27 9C0 苗圃

28 9D0 畑地雑草群落 (シロザクラス)

- 29 9 F 0 牧草地（人工草地）
- 30 9 F 1 ゴルフ場
- 31 9 G 0 水田雑草群落（イネクラス）
- 32 9 H 0 休耕田雑草群落（タウコギクラス）

その他

- 33 A 1 0 市街地
- 34 A 2 0 緑の多い住宅地
- 35 A 2 1 公園・墓地等
- 36 A 3 0 工場地帯
- 37 A 4 0 造成地
- 38 開放水域
- 39 A 7 0 自然裸地

660 アラカシ群落

相観 常緑広葉樹高木林

アラカシを優占種とする樹林は、府下全般に見られるが、沖積地のアラカシ林はタブ林との結びつきが強く、台地丘陵地のアラカシ林はコジイ林の要素が強い。

沖積地のアラカシ群落は市街化の中に埋没し、たまに見られるものも層序を欠き林床の荒れた形状を有している。大阪市住吉区住吉神社、豊中市春日神社、同住吉神社等の社叢がこれに該当する。

仁徳天皇陵や履仲天皇陵などの陵墓、堺市大鳥神社、同家原寺など丘陵地に立地する樹林は、クスノキ、ナナメノキ、アラカシ、ヤブニッケイが優占し、ムクノキ、エノキなどの落葉種も見られる。

両者とも、かつて土地の形状変更が行われた場所に成立した樹林で、厳密な意味では自然植生ではないが、緑の少ない市街地に在るという相対的価値の高さと、出現数の多さなどから、本調査では自然植生の範疇に入れた。

712 ヤブムラサキーコナラ群集

相観 落葉広葉樹高木林

コナラ、ヤマザクラ、エゴノキ、ヤマウルシ、モチツツジなどを有し、モチツツジ-アカマツ群集と種構成はよく似ているが、僅かにコナラが優占し、やや湿潤な山腹下部に成立する。

今回の調査地では池田市五月山の山麓下部にまとまって見られる。

730 伐跡群落

相観 夏緑草本および低木群落

宅地造成途上の山林伐採地に見られる。アカメガシワ、リョウブ、ヌルデ、サルトリイバラなど陽光性の林縁種が出現し、ススキ、メヒシバなどの草本も混入する。

千里ニュータウンの周辺部に多い。

7 6 1 ネザサーズスキ群集

相観 高茎禾本草地

和泉市信太山の自衛隊演習場に広く分布する。

ネザサ、ススキ以外に、メルケンカルカヤ、トダシバ、アキノキリンソウなどの草本に混じりアカマツ、ヒサカキなどの木本も出現する。

7 6 3 チガヤーススキ群落

相観 高茎禾本草地

大和川等の河川高水敷に出現する。これらはヨシクラスの立地としては乾燥しすぎた場所に見られ、ヨシクラスより自然性が低くススキ、ネザサ、チガヤ、オオシバリ等を構成種とする。

7 7 0 シバ群団

相観 低層禾本草地

高速道路等の整備による大規模なインターチェンジが出現し、その修景緑化も盛んである。その一つである千里インターチェンジも万国博覧会当時に開設され、張芝を主とする緑化が盛土部に行われている。一部クロマツ等の植栽樹木も見られるが生育不良でシバ群団として区分した。

7 A 3 モチツツジーアカマツ群集

相観 常緑針葉樹高木林

乾燥浅土性斜面に分布し、沖積地には見られない。大阪府下の代表的代償植生であるが、市街地中心の今回調査では、分布は少なく、池田市五月山以外大面積のものは見られず、千里や泉北のニュータウンの残存樹林として点状に分布している。

高木層にアカマツが優占し、亜高木層にコナラ、リョウブ、ヤマハゼ、低木層にソヨゴ、ヒサカキ、ネジキ、ナツハゼ等が優占している。近年の松枯れによって高木層

のアカマツが枯死したものは、種組成的にヤブムラサキコナラ群集と殆ど同じ構成となっている。

7 B 0 クロマツ群落

相観 常緑針葉樹高木林

府下南部の山地丘陵地に主として分布している。モチツツジーアカマツ群集とクロマツの有無以外種組成的に差異はない。泉北の丘陵部に僅かに見られる。

8 3 0 ヨシクラス

相観 湿原草本植物群落

淀川の河川敷に大面積で出現する。水分条件によって若干の差があるが、一般的にヨシ、セイタカヨシが優占し、クサヨシ、オオイヌタデ、ギシギシ、エノコログサなどが出現する。オギやセイタカアワダチソウが優占するのは、やや乾燥する場所である。

9 1 2 クロマツ植林

相観 常緑針葉樹高木林

かつての海岸線の白砂青松を形成していたクロマツであるが、海岸線が埋立てられた現在、残っているのは僅かで、今回の調査対象地では浜寺公園の松林が該当する。

9 4 0 常緑広葉樹植林

相観 常緑広葉樹林

臨海部の工場と市街地の社寺に見られる。

前者は工場内の主として周辺緑地帯を形成する樹林で地域の自然植生構成種であるクスノキ、アラカシ、シイ、クロガネモチ、ヤマモモなどを用いて緑化を試みている。幼苗植栽を特徴としており未だ植生単位を特定できない。新日鉄堺工場、関西電力堺

港発電所などの周辺緑地帯が該当する。

後者の社寺林はアラカシ群落の構成種が多く見られる樹林で、天然記念物に指定された古木を含むものもあるが、人為の影響を強く受け構成種の欠落や林床の荒廃が見られるのでこの凡例とした。堺市方違神社、大阪市住之江区護国神社、豊中市原田神社などが該当する。

970 竹林

千里ニュータウン内に環境保全林的に残されたものや、ニュータウン周辺の残存林にモウソウチクを主とする竹林が見られる。放置されたものも多く、シイ、アラカシ、ネズミモチ、カナメモチ、チャ、ジャノヒゲなどが林床に出現する。

表 目 次

	頁
<ヤブツバキクラス域自然植生>	
5. アラカン群落	17
<ヤブツバキクラス域代償植生>	
16. チガヤーススキ群落	23

資料リスト

番号	筆者名（または発行者名）	発行年 (西 暦)	資 料 名
1	(財) 日本自然保護協会	1971	和泉葛城山自然公園学術調査 報告書
2	大阪府南部公園事務所	1973	大阪平野の残存自然植生
3	中 西 哲	1974	神戸市の植生
4	環 境 庁	1975	自然環境保全調査報告書
5	運輸省第三港湾建設局	1975	臨海部緑地導入に関する基礎 調査
6	国土庁土地局	1976	土地分類図
7	大 阪 府	1976	土地分類図基本調査 (泉州地域)
8	〃	1977	土地分類図基本調査 (北大阪地域)
9	宮 脇 昭 編	1977	日本の植生
10	〃	1978	日本植生便覧
11	大 阪 府	1979	第2回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書
12	環 境 庁 編	1980	日本の重要な植物群落(近畿版)

